

同窓新報

題字・上野慧賢先生

発行所
東京都世田谷区
上用賀一丁目
駒沢大学高等学校
同窓会
TEL (700)6131(代)

発会二十周年記念号

によせて

同窓会名誉会長 上野 慧賢



そして、日本を、おたがいが尊敬しあう良い民主主義の国にきづきあげるとともに、世界の平和の確立につとめるような立派な人々をたくさん送り出したいと心掛けています。

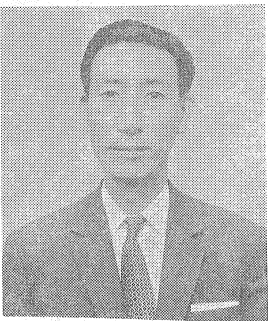
これは本校「学校案内」の冒頭に掲げられた文章である。同窓生諸兄が、社会の荒波の中に、色々の苦難と戦いながら守りぬき、次々と、後輩に伝えていた建学の精神に他ならない。ここに、発会二十周年を迎えるに当り、お互に、勉学の昔を回顧するもの、また、ふさわしいことではなからうかと、敢て転載した次第である。

太平洋戦争後、世人、口を開けば、世界の平和と云い、人類の福祉と云い。終戦後すでに二十六年、果して、世界は平和になっておるであらうか。真の幸福がもたらされておるであらうか。

二十周年記念式典のお知らせ

駒大高同窓会は現在五五〇二名の大世帯となり、今後一層の発展と活動が望まれますが現在の活動状況は、下記のようになっています。御参加をお願いし、ご案内いたします。この機

一隅を照らす



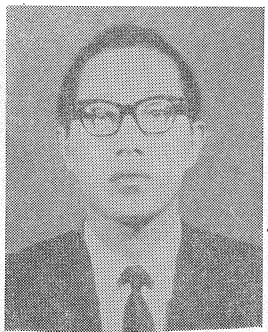
同窓会会長 秋山 彰三

昭和二十六年三月、駒沢大学高等学校の第一期生が同窓会を卒業し、同窓会を組織してから二十二年が経過しました。

このことは、現在の日本の社会において、同じ駒沢大学高校に学んだ五五〇二名の者が、それぞれの職場で、また、学校において働き、また、勉学を続けているというを示すものであります。

「経寸十枚これ国宝にあらず、一隅を照らす、これ即ち国宝なり」という言葉があります。これは中国春秋時代に、魏の王が明宝

就任当時



思い出

広野 義成

野球などできぬほどであったが、野球部が強くならなれた。総合体育大会などでは、常に一躍を照らした。また、大学時代には、(校舎が)鉄筋五階建ての校舎が、建設されはじめた。この校舎が高等学校の校舎であること、私、私が知ったのは、実は

まじめにこれを務めるといふ点においては、他校の者体となるのは、あくまで同窓生諸氏であります。同窓生が協力して同窓会に光りを与え、これを照らさなければ、同窓会は光らないのであります。私は、同窓会の充実ならびに今後の活動につき、みんなの意見と協力を待つ次第であります。(第一期生弁護士)



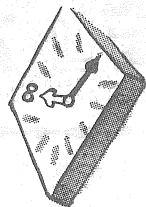
これは、重労働であった。生徒がまだ入っていないこの校舎は、塗料とコンクリートとの臭いが漂い、息苦しさを感じさせた。反面紹介された渡部教諭は他界され、また、三木、嶺、宮沢各教諭は、大学に栄転された。

ハワイ雑誌帖

英語研修セミナーに参加して

同窓会顧問

大山興隆



二年生二名・一年生二名
の計四名と、宗内他校
生二名を加え、引率教員
は、私のほかに長棟・河村
の両教諭と白川講師の四
名、八月十一日羽田を発
ち、ホノルル市曹洞宗別院
に合宿して、二日の夜無
事帰ってきた。

最近、英語教育のあり方
や方法論が、各方面で論議
されている。門外漢の私
が、このようなことを書く
のは心外であるという向き
もある。でも素人が考え
てみても、言葉は、その国
の歴史や地理・風俗や習慣
・流行や制度等の人間関係
を離れてあり得ないし、な
りたつわけはない。つまり
言語だけ抽出して学ぶわ
けにゆかないということだ
である。

英語は今や国際語にな
り、若い人にとって今後国
外に眼を向ける機会が多く
なるばかりである。話し言
葉も、ますます重要さを増
してきている。

本校で今夏、始めてハ
ワイ英語研修セミナーを行
ない、今後も恒例の行事とす
ることになったのも、この
ような考え方が土台になっ
たものといえる。しかしそ
れには、ハワイがいかに
適当かという点も異論もあ
るが、ハワイは日系人も多
く、すべてが好便宜な処と
いうことで選ばれたわけだ
である。

さて前置きはこれの位に
して、今回のセミナーに参加
したものは、三年生七名。



「同胞亡霊慰霊塔」前にて 左より二人目大山先生

二四時に夜食がある。ソ
バとパンが主食の機内食は
して盛大な歓迎パーティー
あり。長棟教諭の英語挨拶
はよく食べるも寝れぬ如
や三年生野秋君の英語スピ
ーチには拍手盛なり。アッ
と一瞬三十分から、駒形
分太陽翼下に昇る。四時朝
食、流石に食べられず。十
一時真珠湾を左手にホノ
ル空港着所要時間六時間
半。

駒形別院住職や太陽寺小
沢師夫妻らの出迎をうけ別
院に落ち付く。昼食前に五
人の唄を唱う。手伝いの婦
人たちが大いによこごび一
緒に合掌して唱える。早くも
アメリカ人である。

ハワイ諸島には現在八五
万人が住み、うち、日本人
(日本在籍) 一万五千、日
系人三万五千といわれて
いる。日系といっても日系
アメリカ人である。

ハワイアンと呼ぶ原住民
はポリネシア系で、東南太
平洋に点在するマオリ・サ
モア・トンガ・フィジー・
タヒチそれにハワイ等の諸
島人で代表される。純粋の
ハワイアンは、現在二・三
万といわれている。

一七九六年カメハメハ大
王が全島を平定して、王政
五代、一八九四年革命のの
ち共和国となったが、四年
後アメリカに併合され、一
二年前五〇番目の州になっ
た。

たのが最初といわれ、その
後は官約・私契約・自由移
民など、だんだん増えてい
った。これらの人が異国の
地で、どんなに苦勞したか
言葉で言い尽せないものが
ある。そして第二の試験は
今次の戦争の時に来た。二
世たちの話も、余りそのこ
とに触れたがらない。結局
「われわれはアメリカ人で
ある」という自覚のうちに
徴兵にも応じ、イタリア戦
線にも参加したという。第
二の転機は今や生活も安定
して、私たちに多くの教訓
を残しながらも定着してい
る。

八つの島と十二の小島か
らなるこの地は、気候快適
で、気温も二七度を上るこ
となく、太平洋を渡る涼風
が光り、スコールと言わず
にシャワーと呼ぶ雨が、毎
日のように道路を濡した。
それで雨具は要らず、美し
い虹のおまけつきで、水道
の水のうまさなんともい
えない。毎日ガブガブ飲
す。

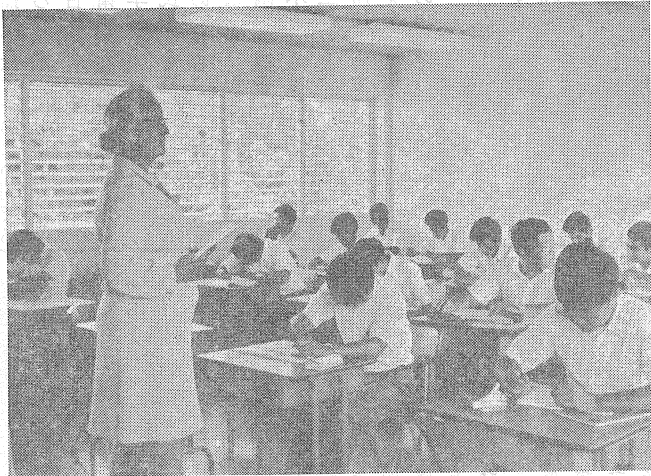
このような環境の中で不
思議にも、一世・二世・三
世と続く同胞たちは勤勉に
働くことに生き甲斐を感じ
ている。別院での年回法事
は夕方から夜行なわれるの
で、もわかる。

セミナーの日課は、五時
半起床。この時間は未だ暗
い。やっと明るくなった六
時に朝課があり、体操了っ
て掃除。日曜は参拝会があ
る。夢にも考えられないも
のがあった。別院住職の駒
形に堂々とやりとげ、われ
われとしても鼻高々であっ
た。

とである。同君にとってハ
ワイ第一号の首座として終
生の語り草となるばかりで
なく、多くのものの前で立
て、夢にも考えられないも
のがあった。別院住職の駒
形に堂々とやりとげ、われ
われとしても鼻高々であっ
た。

道元禪師の歌に
この心 天つそらにも
花そなう
三世(みよ)の仏に
奉らなん
というのがある。ハワイ
は誰れでもゆける所ではな
いだろう。でもここに学ん
だ美しい思い出と交流は、
いつの日か心の糧となり、

忘れたくない思い出とし
て、ハワイ島のキラウエア
火山の噴火がある。飛行機
でヒロ市に着きオオダイ養
蘭園を見物している時、火
山が噴いているというニュ
ースが入った。急いでバス
に飛びのりボルケノハウス
に着いて眼に映った熔岩の
噴出は、これが火山かと思
われる巨大な火の帯であっ
た。一見平地にくりひろげ
た火の踊りである。右にマ
ウナケア(四千米)のなだ
らかな稜線が続き、クレイ
ターが大きく口をあけてい
る。一七年ぶりの噴火とき
いて更にびっくりした。昼
食をとりながら眺めるなど
洵に乙なもので、めぐりあ
わせの不思議さに感謝して
いる。



授業風景



日系人との交歓会

花を咲かせ実を結ぶことで
あろうと信じている。

(本校教頭)

× × ×

ハワイ英語研修セミナー

日程

八月十一日二時三〇分羽

田発 日六二便

ホノルル着、曹洞宗別院

に合宿

午後オリエンテーション

夜歓迎レセプション後

「ハワイの仏教事情」駒

形住職

八月十二日

ホノルル市内オアフ島観

光

夜「ハワイの日系人」町

田開教師

八月十三日

午前学習セミナー 午後

海水浴

八月十四日 ハワイ島観光

八月十五日

坐禅、サンデースクール

学習午後、太陽寺法要に

参列

八月十六日 午前学習セ

ミナ、午後、パイン工場

見学、ポリネシア文化セ

ンター見学

八月十七日 午前学習セ

ミナ、昼食、カイマナホ

テルで駒形師招待、午後

自由行動

八月十八日 午前学習セ

ミナ、午後、婦人会員家

庭招待(インバイト)

八月十九日 学習セミナー

記念写真、終了証書授与
午後ショッピング、夜送
別会

八月二十日 ショッピング

自由行動、夜帰国準備、

環境整理

八月二十一日 午前内外清掃

荷物整理、一六時五〇分

日航ジャンボ五便で発

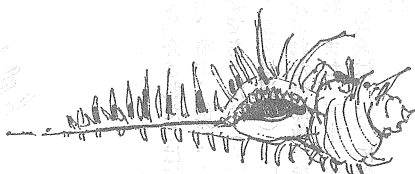
つ

八月二十二日 一九時四五分

羽田着 解散



カピオラニ王宮の近衛兵駐屯所



アメリカで

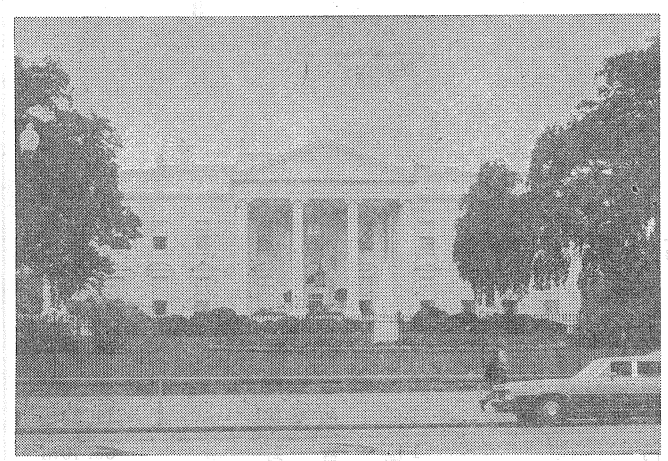
感じたこと

同窓会顧問 羽住 奎



ナイアガラの滝にて

今夏、学校のご好意により約三週間、アメリカ・メキシコ教育視察団に参加し旅行できたことは、私にとりて無上の喜びであると同時に、大いに見聞をひろめる好機であった。先に三十八年夏、英文学研修のためイギリスに二週間滞在した後ヨーロッパ諸国を旅した経験があり、この二度にわたる旅行を通じて、各国の風土・習俗・国民性を多少なりとも理解することができた。特に英語を母国語とする人々との接触は、私にとって何よりの勉強となり、おかしな見聞した事象は、教室での授業、その他に役立つこと、話や読書など有益な旅であった。このたびの旅行で、私なりに目で見、耳にしたことを、アメリカを中心として書いてみようと思う。



ホワイトハウス

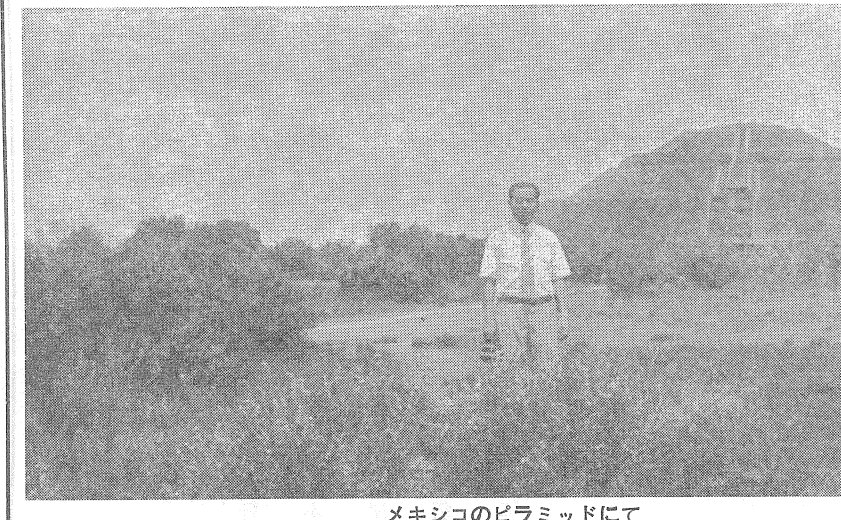
イギリス旅行の時は、始末で、ヨーロッパの諸国よりもよ不安の交錯した気持ちで、文り身近かな国として感ぜられる故かも知れない。しかくつかの点で理解しかねる

アメリカの総人口の約一二%を占める黒人、特に大都市に集中的に進出している黒人の数は想像以上である。聞くところによれば、ニューヨーク五〇%、ワシントン七〇%とかいわれ、シカゴ・ボストンなども年々増加の傾向にあるようだ。マンハッタン区のハーレム街、ワシントンの黒人居住地を訪れると、早朝から街角や戸口にたむろし、酒をのみ、わめき、寝そべり虚脱したような無気力な大人達、タバコをくわえ、クラッカーに興じ、消火栓をいたずらしたり、危険な遊びにはしゃぎまわる汚れたボロをまとった子供達、アパートの窓はこれ、壁はおち、ペンキのはげた建物、塵埃は所かまわず捨てられ、紙は風に舞い、一面に漂う異臭、何とも名状しがたい光景であった。この地区を歩く時は一種の不安と恐怖を感じながら、カメラを向けるのも遠慮し、嬌声に驚き、近づくのを避け、逃げだそうと身構えたりするのは私一人ではなさそう

だ。こういう地区に近接して住んでいる白人達が、だんだんと他の地区や郊外に居を移すのも何か不気味さを感じるかも知れない。マンハッタン島は今や白人にとりて生活の場ではなく、ビジネスや娯楽の場所として通動し集まるにすぎなくやがて黒人の島と化すのではないかとさえ思われた。こうした黒人の台頭は、ブラックパンサー党の運動を中心に、白人街襲撃や警官隊との衝突、相次ぐ爆破事件、学生を中心とする新左翼との連携もあって、ますます全土に拡がりが盛上りつつある。差別問題、法的には徐々に撤廃され改善されつつあるが、有史以来の問題だけに多く病巣をはらみ複雑化しているようだ。例えば黒人の大半が失業者として巷に溢れているのも、企業は労働力の不足する時点では、最後に



グランドキャニオン



メキシコのピラミッドにて

が)や仕事に対する情熱の欠如(日本と比較して)、また権利の主張ばかりしている国にとりては当然のことと思われるのだ、我々旅行者が一日の旅や会合を終え街に出て、買物もまた一杯やろうにも日本のようにはいかず、ウインドウショッピングと散歩位しかできない、街には退廃的なムードが漂い、犯らんするポルノ映画や雑誌、若者の服装や行動は何か末期的な症状を呈している感さえする。ネオンと喧騒の中にうごめいている雑多な人種が織りなすものは一体何であろうか、アメリカの諸都市を旅して、いつもこんな疑問が湧いた。店先きに並べられた商品も、日本、香港をはじめ外国製品のいかに多いことか。特に日本製品の多いのには意外であった、これ程までに進出していけばアメリカにとりて脅威であることは想像に難くない、アメリカは考えれば考えるほどいろいろと矛盾と複雑さを痛感する国であり特にかつて黒人・ユダヤ人・プエルトリコ人など問題を持つ人種と世界各国からやってきた人々が一つ旗のもとで生活すること自体がいろいろと問題を複雑化している根本的理由なのかも知れない。一族一種族といわれる日本人には理解できないことが多いのも当然であろうか。

しかし一方近代科学・技術・学術・その他の面で先進国として威厳を保っていることも否定できない。広大な自然、ナイアガラ、大峽谷、湖水、砂漠の景観などに驚き、林立する摩天楼、整備された道路を疾駆する自動車に旅行者はアメリカを感じ、偉大さと複雑さを感じ、数々学びアメリカを去るであらう。私ももっと考え研究し機会あれば再び訪れたいと念じつつ印象の一端を述べた次第である。

四六・九月記
(本校教諭・英語)



シカゴの夜景

校友会だより

駒大高校友会の対外的な活躍には目をみはるものがあります。今回は活躍する体育会の中で次の各クラブの活躍をご紹介します。なお、同窓生諸兄弟の今後のご声援をお願いします。

バレー部

顧問 広谷 五郎

バレーボール部戦績 昭和四十五年～現在
四十五年三月二十五日 第一回全国高校バレーボール選抜優勝大会においてベスト八
四月 東京都高体連バレーボール大会において準優勝
六月 関東高校バレーボール大会においてベスト八
六月 全国高校バレーボール選手権大会都予選第一位
八月 全国高校バレーボール大会ベスト十六位
九月 国体都予選・準優勝
四十六年二月 第二回全国高校バレーボール選抜優勝大会都予選 優勝
三月 “ ” 出場
四月 東京都高体連バレーボール大会において準優勝
六月 関東大会に都代表として出場
八月 全国高校バレーボール大会出場
九月 国体予選準優勝

野球部

監督 小野 忠一

野球部公式戦成績
昭和四十五年度新人戦(ブロック予選)
第二回戦駒大高五対〇国学院
第三回戦 “ 三対二安田学園
決勝戦 “ 六対二都府中工
(東京都ベスト16位シード校決定)
新人戦本部大会(ブロック優勝のみ参加)
第一回戦駒大高〇一〇桐朋
昭和四十六年度春季大会(シード校三十二校参加)
第一回戦駒大高四対三都立墨田工

陸上競技部

顧問 柏崎 康利

第24回 東京都私立中学高等学校第8支部私学祭

総合体育大会 45. 10. 29 (木)				
陸上競技部優勝記録				
100m	決勝	2位	山本 祐幸	11秒5
400m	“	4位	宇田川 武男	56秒3
500m	“	5位	林 明男	4分34秒2
5000m	“	3位	高梨 幸夫	17分13秒2
		6位	飯嶋 貞夫	17分29秒3
4×400m	“	3位	宇田川、内藤、斎藤、山本	3分43秒5
走幅跳	“	1位	土井 明	6.75m
三段跳	“	3位	丸 不二雄	13.04m
走高跳	“	1位	三ヶ田 裕昭	1.60m
砲丸投	“	1位	増田 信男	10.89m
		2位	加々美 功	10.79m
円盤投	m	1位	吉野 和夫	37.24m
		3位	荻野 達雄	35.20m

<各校陸上競技総合成績>

優勝	駒大高	55点
2位	日大桜ヶ丘	44点
3位	武蔵工大	36点
4位	農大	31点
5位	科学技術	17点
6位	東工	17点

東京私立高校陸上競技大会 45. 11. 22				
100m	決勝	3位	山本 祐幸	11秒3
走幅跳	“	2位	土井 明	6.48m
砲丸投	“	1位	加々美 功	11.64m
円盤投	“	1位	吉野 和夫	35.40m
同	“	2位	荻野 達雄	33.70m

第24回 東京都高等学校陸上競技対抗選手権大会 46. 5.

100m 予選	1位	山本祐幸	11"5	準決	3位	11"3	決勝	3位	11"3
“	1位	土井 明	11"6	“	3位	11"5			
200m 予選	1位	土井 明	23"3	準決	2位	23"1	決勝	2位	23"2
走幅跳 決勝	3位	土井 明	6.71m						

<学校別得点> 13点 東京都8位

関東陸上競技大会(千葉県) 46. 6.

100m 予選	4位	山本 祐幸	11秒5	失格
200m “	4位	土井 明	22秒9	失格
走幅跳 決勝	5位	土井 明	6.68m	

等24回 全国高等学校陸上競技大会 46. 8. 2

走幅跳 予選	土井 明	6.81m	通過
決勝	土井 明	6.85m	10位

柔道部

顧問 坪井 久

この二年間の歩み

昭和四十五年二月 城西地区(渋谷、中野、杉並、世田谷地区)柔道大会参加四十二校三位
“ 四十五年五月 東京都選手権大会(参加二〇校)三回戦 日大二高一〇〇駒大高(ベスト十六位内)
“ 四十五年六月 東京都選手権個人大会 加藤一弘 準々決勝進出ベスト八位内敢闘賞を受く
“ 四十五年十月 私学八支部柔道大会 決勝国士館 四一二駒大高 準優勝
“ 四十五年十一月 東京都学年別大会(参加二二校)二年生の部日大一高二一一駒大高(ベスト十六位内)
“ 四十六年一月 城西地区ジュニア新人大会 決勝進出 明大中野二一一駒大高 準優勝
“ 四十六年二月 東京都柔道新人大会(参加二二〇校)準々決勝八王子高校一一駒大高(ベスト八位内敢闘賞を受く(代表戦ニテ敗退)
“ 四十六年五月 東京都選手権大会(参加二二八校)三回戦工学院高一一一駒大高(ベスト十六位内(内容敗)
“ 四十六年八月 八月一〜十日まで東北六県巡回親善試合各県の名門高校を訪ねる二四戦十一勝十敗三引分け
“ 四十六年九月 東京都国体予選大会 大久保和典 東京都十位(国体出場を逸する)
毎年あと一歩という所である。明年こそと日々猛稽古を重ねている。 以上

庭球部

顧問 若月 道隆

全日本大会東京予選 団体戦 本校新記録ベスト十六
関東大会東京予選 個人 ベスト三二に二チーム(新)が入る。

東京都私学祭 ベスト三二 本校 三チーム 入賞
東京都五地区対抗 都倉、嶋崎組、城西地区準優勝、
“ 本大会 城西地区 準優勝



同窓会だより

クラス会報告

昭和四十六年	
二月二十七日	十七期生 L組 三軒茶屋・三河屋 広野先生
三月六日	十七期生 M組 渋谷・ふじもと 長棟先生
三月七日	十八期生 C組 三軒茶屋・三河屋 三木先生
三月十九日	二十一期生 B組 池袋・新々園 樋渡 浦先生
四月十日	十六期生 E組 渋谷・こけし 伏谷先生
四月二十四日	十一期生 D組

同窓会45年度決算

A 収入の部		B 支出の部	
1. 前年度繰越金	4,924,243	1. 運営費	42,900
2. 預金利子	203,499	2. 慶弔費	91,000
3. 45年度生終身会費	1,395,000	3. クラス会補助金	35,500
4. 雑収入	5,709	4. 事務費(通信費)	2,360
合計	6,528,451	5. “ (消耗品)	310
		6. 同窓新報発行費	201,220
		7. 学校寄附	1,118,500(部旗、机、椅子)
C 残高(A-B)	5,036,661		1,491,790

編集後記

同窓会は本年で二〇周年を迎え、記念号ができましたが、母校の先生方のご協力のたまものであります。同窓生の記事を多く載せたいと思っておりましたが、思うように集まりませんでした。次号には是非同窓生の記事で埋めたいと思っておりますのでよろしくお願いたします。また記事内容についてご助言もあわせてお願いいたします。